



おうみ
映像 ▶
ラボ since 2014
BOOK

vol. 2 2015

おうみ映像ラボ since 2014 BOOK

vol.2 2015

CONTENTS
平成27年度 おうみ映像ラボ 活動報告
滋賀の「くらし・わざ・ちえ」
映像めぐりプロジェクト



おうみ映像ラボ

おうみ映像ラボは、滋賀県内の伝行事や生活記録が収められた映像を上映・発信していく団体です。

滋賀を題材にした「記録映像」の情報を収集し、滋賀県各地で「情報収集・情報発信、見聞会、遠足、上映会」を行うことで、古来より引き継がれてきた滋賀の美意識や技術と知恵、地域性、共同体のあり方について再認識する、世代を超えたコミュニケーションの場を創出していきます。

〈ラボ会・見聞会〉

情報収集した映像を持ち寄り、視聴し、見聞を広める公開型の例会です。初見の映像を見ながら情報交換をすることが目的です。

〈遠足〉

映像の撮影地を訪れ、その地で映像を視聴し、地域の方々・映像製作者・地域文化と出会う企画です。

〈上映会〉

参加者を募り、映像を上映し、その映像について語り合う上映会です。

〈メンバー〉

長岡野亜
大原歩
大藤寛子
藤野ひろ美

平成27年度滋賀県「美の滋賀」創造事業 地域の元気創造・暮らしアート事業

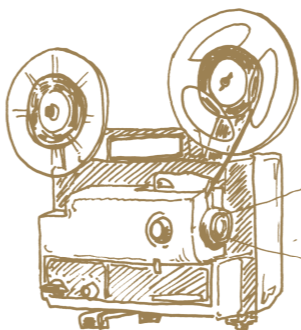
平成27年度文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業



13

「企画提案・共同開催」

『美の滋賀』探訪ハスツアー「美の宝庫・滋賀の魅力に出会う旅」
滋賀の水の文化を探访するツアー 安曇川編
「筏流しの神さま・シヨブチさんを訪ねる旅」



【ラボ会・見聞会 Vol.04】— 高島の夏 迎え方・送り方

日 2015年8月30日(日)
会場 安曇川公民館(高島市)
ゲスト 山本晃子さん
(高島市教育委員会文化財課参事)
協力 高島市教育委員会・
成安造形大学附属近江学研究所



滋賀県高島市のお盆行事の映像を高島市教育委員会の山本晃子さんによる解説を交え、ご覧いただきました。

上映作品は5点。高島市朽木古屋(ふるや)で踊られてきた「六斎念仏踊」の記録、高島市武曾横山でのお盆行事「オシヨライサン」の記録、また参加者の持ち込み映像として「京都・嵯峨野六斎念仏」、「大津市真野の六斎念仏」、「朽木古屋の河原仏」を上映。ひっそりと残っている風習に関心がある方、たまたまチラシを見て来ました、というお近くの方々とともにじっくり見入ったり歓声を上げ拍手したり、お互いの地域行事について質問しあい、映像を通して「生活の中にあつたもの・消えかけているもの」を話す場となりました。撮影された当時から幾年か経ち、行事の内容が変化し、途絶えたものもあります。高島市朽木古屋の六斎念仏踊は近年開催されていませんでしたが、何らかの形で継承できないかとアーティストを交えての取り組みが『朽木の知恵と技発見・復活プロジェクト』(<https://www.facebook.com/kutsukichiewaza/>) によって進んでいます。

『古屋六斎念仏踊』

2004年制作/22分35秒
制作・朽木村教育委員会



滋賀県高島市朽木古屋(ふるや)に伝わる六斎念仏踊の記録映像。滋賀県下でも数少ない民俗芸能として、平成10年に滋賀県選択無形民俗文化財に選定され、魅力的な音色と踊りが受け継がれています。字幕解説あり。

- 08:00 家を参る様子
- 08:44 先念仏
- 02:24 ミノマイ
- 05:32 ウチアゲ
- 06:27 ロクタン
- 09:50 後念仏
- 13:33 古屋玉泉寺
- 14:00 先念仏
- 15:33 オビヒヤル
- 19:35 オビヒヤル



山本晃子さんの解説



高島町歴史民俗ライブラリー (NO. 4)
—信仰編—
横山のオシヨライサン
平成5年8月1～18日



『横山のオシヨライサン』

1993年制作／26分10秒
制作：高島町文化協会民具クラブ

滋賀県高島市武曾横山の地域に引き継がれるお盆行事の記録映像。「高島町歴史民俗ライブラリー—信仰編 (NO. 4)」として制作されました。天台宗である横山大清水寺の檀家さんのお盆行事の様子を、日を追って記録しています。8月7日清臺、仏具磨き、墓参り、13日精進料理、オシヨライサン迎え、お上人さん参り、オシヨライサン送り、盆踊り、施餓鬼供養、ご詠歌などがナレーション付きで解説されています。

『嵯峨野六斎念仏』

2009年制作／1時間24分
制作：京都・嵯峨野六斎念仏保存会

2009年8月23日に嵯峨野阿弥陀寺の本堂で奉納された、京都・嵯峨野六斎念仏保存会の映像。保存会の人数は多く、年齢層も幅広い。観客に向けて魅せる「芸能六斎」として演目には迫力があり、観客に向け魅せる要素が多く見られます。



嵯峨野六斎念仏保存会

<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/ky-sagan/>

『真野の六斎念仏』

2014年撮影／約10分
撮影：加藤賢治

成安造形大学附属近江学研究所研究員の加藤賢治さんのフィールド研究資料映像。大津市真野地区で8月14日に行われる六斎念仏。真野地区では、1チーム6人で踊る。現在4チームあり、若者から重鎮まで、幅広い年齢層で行われています。(未編集映像)

『古屋の河原仏』

2015年撮影／約35分
撮影：大原歩

高島市朽木の針畑川流域にて盆行事のひとつとして行なわれる「河原仏」ができるまでの映像記録。朽木古屋集落にて撮影。8月15日朝、家ごとに針畑川に集まり、石を集め彼岸の島をつくり六体地藏をつくります。川岸と六体地藏のいる彼岸との間に石橋を渡し、地藏の周りにはミソギハなどの盆花が手向けられ、ご先祖を弔います。古屋では14日の夜に六斎念仏踊が開催されていました。

おうみ映像ラボメンバー・成安造形大学近江学研究所研究員の大原のフィールド研究資料映像。(未編集映像)

【ラボ会・見聞会 vol.05】 共催 —びわ湖高島・野鍛冶復活プロジェクト おはなし会

日 2016年1月24日(日)
会場 新旭公民館(高島市)
主催 びわ湖高島・野鍛冶復活プロジェクト
共催 おうみ映像ラボ
協力 成安造形大学附属近江学研究所

滋賀県高島市新旭町熊野本の辻沢地区で1992年まで操業されていた野鍛冶建物・小島兄弟工場(けいていこうば)をもう一度復活させたいと、「びわ湖高島・野鍛冶復活プロジェクト」が立ち上がりました。最初に、プロジェクト立ち上げの経緯について、また工場に残っていた当時の大福帳で『屋号はカネコ、正式名は「農具専門小島兄弟工場』と日々、兄弟で経営されていたことや、使われていた看板を発見したことなど、これまでの様子をメンバーが話した後、京都・亀岡「片井鉄

工所」が地域ぐるみで野鍛冶に触れる場所となつている様子が松井禎子さんの写真とともに紹介されました。次に滋賀県野洲市の鍛冶大鐵工の西川征一さんの『先掛け(さつかけ)仕事』の記録映像をご覧いただきました。このプロジェクトに関わる人たちの熱い思いがほとぼしり、とても寒い日でしたが、会場はとても熱い場となりました。

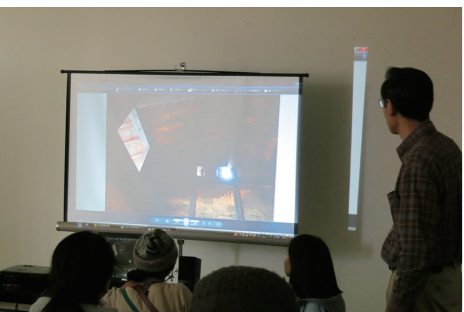
びわ湖高島・野鍛冶復活プロジェクト
<https://www.facebook.com/takashima.nokaji/>

『野鍛冶の先掛け仕事』

2014年撮影／約20分
撮影：大原歩
協力：鍛冶大鐵工



滋賀県野洲市の西川さんによる「先掛け仕事」の記録映像。田畑仕事で刃先がすり減ったスキ先の手入れ作業「先掛け」を取材した際の記録映像。刃金のワカシづけ、水打ち、削り出し、焼き入れの一連の作業が記録されている。おうみ映像ラボメンバー・成安造形大学近江学研究所研究員の大原のフィールド研究資料映像。(未編集映像)



【上映会 Vol.02】

— 8ミリフィルム映像上映会

日 2015年12月5日(土)
会場 東近江市能登川博物館 集会ホール(東近江市)
ゲスト 8ミリフィルム提供者の皆さん
松本篤さん (MPO法人記録と表現とメディアのための組織 (remo) 研究員)
杉浦隆支さん (東近江市能登川博物館学芸員)
共催 東近江市能登川博物館



昭和30〜50年代にかけて家庭用に普及した「8ミリフィルム」。高度経済成長期と重なる、8ミリフィルムが撮られた暮らしの変革期に、滋賀の家族の暮らしはどのようなものだったのでしょうか？

能登川博物館所蔵の「伊庭坂下し祭り」や「能登川の江州音頭「納涼大踊り会」」、また彦根の千代神社、多賀の松茸狩り、信楽の家族の風景など、ご提供いただいた滋賀県内で撮影された8ミリフィルムを合わせて15点お披露目しました。

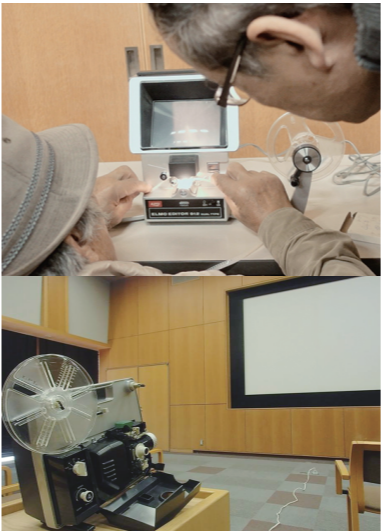
ゲストには、パーソナルな記録物の潜在的価値を探索する「MPO法人記録と表現とメディアのための組織 (remo)」研究員の松本篤さんをお招きし、プライベートな家族の日常の背景に映る「パブリックな情景」について、全国各地で実施されている活動を紹介しながらお話いただきました。また、東近江市能登川博物館学芸員の杉浦隆支さんには、能登川博物館所蔵の8ミリフィルム映像について解説していた

いただきました。

その後、滋賀県内で撮影された8ミリフィルムの提供者の皆さんに登場いただき、いつ・誰が・どのように撮影されたのか、お話を伺いながらフィルムを上映しました。

びりびりに障子が破られた部屋の中で楽しそうに遊んでいる子ども達の様子、山の中で松茸狩りをして、そこで焼きにして楽しむ様子…。カメラを手にしていた人の気持ちや映像に映っている人や景色に反映されて、見ているこちら側に伝わって来る気がしました。また、木造小学校が映っていました。また、木造小学校が映っていました。

見ず知らずの誰かが記録した映像に、自分の遠い記憶を思い出す。それを言葉に出して、初対面の参加者同士の話が弾む。上映会場では滋賀の風景を共有しながら、いつのまにか交流が生まれていました。



『伊庭坂下し祭り』

1970年頃撮影／36分
撮影：個人

所蔵：東近江市能登川博物館
毎年5月に東近江市伊庭町の織峰三神社で実施されている「伊庭坂下し祭り」は、800年以上も続くお祭りです。近江の奇祭と呼ばれ、三基の神輿を氏子の若衆が引きずり降ろす、迫力溢れる神事として、滋賀県選択無形文化財に指定されています。この映像は、昭和40年代に記録用として作成された8ミリフィルムで、祭りの準備から当日の神事の状況をナレーション入りで記録されています。



『能登川共盛会毎月8日びっくりり市、江州音頭』

1970年頃撮影／19分
撮影：個人

所蔵：東近江市能登川博物館
滋賀県下のトップを切った毎年7月1日に開催されていた江州音頭「納涼大踊り会」の昭和40年代の記録。能登川駅前にある「能登川共盛会」が主催する「毎月8日びっくりり市」や、町内を街宣車で走る様子、能登川南小学校のグラウンドで開催された「納涼大踊り会」当日の準備風景、江州音頭が記録されています。



『千代神社のお祭り』

1970年頃撮影／約8分
所蔵：宮田法子さん

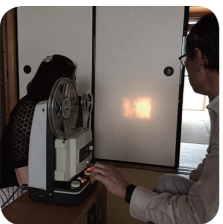
昭和40前半の頃、彦根の千代神社の春祭りでの稚児行列の様子です。きれいな着物を着て化粧をし、お姫様のような冠をかぶったの行列で、とても嬉しかったのを記憶しております。父が行列に付き添っているときは、母が撮影していたようです。今は、亡き懐かしい方々も映っている様子に庶民が撮ったフィルムの貴重さがうかがえます。(宮田法子)



『家族の風景』

1973年頃撮影／約30分
所蔵：宇田安利さん

昭和43年頃、甲賀市信楽町。安利さんの伯父により愛情たっぷりに撮影されている。安利さんの1〜3歳ぐらいまでの様子。家の前でお姉さん、近所のお姉さん、お盆やお正月に帰省した従妹たちと遊んでいる様子。家で飼っていた鶏と遊んでいる様子、びりびりに障子が破られた部屋の中で楽しそうに遊んでいる子ども達の様子。叔母の結婚の荷出しや、結婚式の様子などが記録されています。





『松茸狩り』

1960年撮影／約23分
所蔵：個人

昭和35年に多賀町にて撮影された映像です。京都からのお客さんを松茸でもてなした様子。撮影はお客さんが撮られ、「都会の人が見た田舎という構図」となっています。犬上川の橋が大雨によって陥落し、その上を木材を乗せた荷馬車を通る様子、当時の彦根城のお堀の様子や柿採りの風景を知ることができます。また、多賀大社や河内の風穴に観光に行った様子が記録されています。



『運動会』

1979年撮影／約30分
所蔵：個人

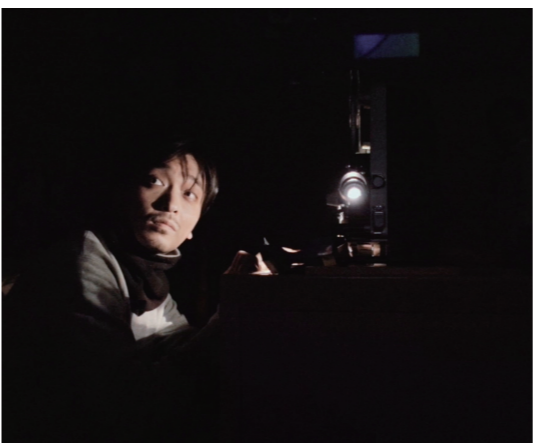
昭和54年に撮影された安曇川町藤江区の運動会の様子が記録されています。素走り、綱引きなどの競技の他、お昼休憩で家族が楽しそうにお弁当を食べている様子、現在も残っている木材屋さんの建物、当時の車が映り込んでいます。応援している人など映っている人の数がとても多く、現在は住んでいる人が少なくなることが分かりました。



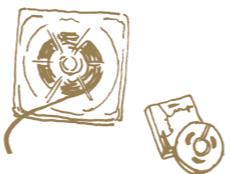
『九州
会社慰安旅行ほか』

1973年撮影／約30分
撮影：個人

所蔵：東近江市能登川博物館
東近江市内で不動産会社を運営しておられた方より博物館へ提供された8ミリ映像。社内旅行で大分へ行った時の様子が記録されています。



【8ミリフィルム発掘プロジェクト】



今年度からはじまった「8ミリフィルム発掘プロジェクト」。高度経済成長期と重なる8ミリフィルムが撮られた暮らしの変革期に、滋賀の家族の暮らしはどのようなものだったのでしょうか？8ミリフィルムの映像に映し出される思い出と、その背景に映りこむ時代の風景を読み解きたいと、スタートしました。情報を募り、信楽・高島・能登川・彦根などの映像と出会うことができました。また、8ミリフィルム映像を多く所蔵している能登川博物館とつながり、共催での上映会を開催しました。そして、この取り組みを知り、ご自宅で眠っていた映写機や貴重な8ミリカメラを寄贈いただき、出張上映会を行うことができました。

8ミリ
試写会

【8ミリ出張上映会】

日 2015年11月29日(日)
会場 パン&ケーキカフェ
「Familie (ふぁみーゆ)」(高島市)

「8ミリフィルム、あったよ〜！」
ファミリーユさんからご連絡がありました。ご近所の方が映写機は無いけれどフィルムを保管されていたとお話。早速、おうち映像ラボから映写機を持ちこみ、出張上映会を開催しました。

『運動会』
1979年撮影／約30分
所蔵：個人

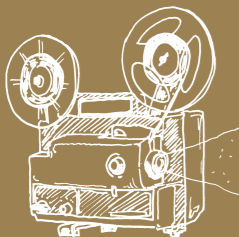
映っていたのは昭和54年に撮影された高島市安曇川町藤江区の運動会の様子。

「ともちゃんや〜！」
「この人、さつきから足速いなあ〜！」
「こんなにたくさん人が住んでたんやなあ〜」
「今の小学校の人数は90人ぐらいな。」
上映会に来られたご近所のおじいさんや小学生のみなさんと話に花が咲きました。



滋賀県内で撮影された昭和30～50年代の

8ミリフィルムを 探しています！



8ミリフィルムを上映するまで

- ① おうち映像ラボまでお問い合わせいただく。映像の内容がわからなくても、お気軽にお問い合わせください！
- ② ご提供いただく8ミリフィルムを試写する。
- ③ ご承諾いただいた方のみ、みんなが寄り合える上映会で鑑賞します。

【遠足 Vol.02】—甲賀の木挽きに会いに行こう



日 2015年10月18日(日)
 会場 甲南ふれあいの館(甲賀市)
 協力 甲賀市教育委員会・
 甲南ふれあいの館

ナビゲーター
 長峰透さん(甲賀市教育委員会事務局
 歴史文化財課参事)
 田中新治郎さん(元木挽職人)

上映作品
 ・『甲賀前挽鋸』26分
 ・『甲賀の木挽』16分
 制作 甲南町教育委員会

09:40 甲南駅 参加者集合
 10:00 甲南ふれあいの館 到着
 開会のあいさつ
 10:10 「甲賀の前挽鋸について」展示
 見学・長峰さんのお話し
 11:00 映像上映(和室にて)
 12:00 昼食「甲賀のお弁当」
 甲賀特別メニュー
 甲賀産米、水口かんぴょうと葱の酢味噌
 和え、海老豆、近江八幡の丁子麩と赤コン
 ニャク、水田ナスのお漬物、イチジクの水
 煮、甲賀のお茶
 12:45 田中新治郎さんのお話し・
 木挽の実演・木挽体験
 14:30 長峰さんと歩く甲南
 深川〜森尻・矢川神社〜深川
 市場〜甲南駅
 16:00 甲南駅前にて 解散



2015年、滋賀県で初めて国の
 重要有形民俗文化財として「近江甲
 賀の前挽鋸製造用具及び製品」が指
 定されました。北は樺太・北海道、
 南は台湾・マニラにまで販売された
 優良な前挽鋸が製造・流通・使用さ
 れてきた甲賀市杣川沿いの甲南地域
 を訪ねました。

甲賀の前挽鋸の製造用具資料一式
 が収蔵・展示されている「甲南ふれ
 あいの館」。甲南町教育委員会にて
 総合調査が行われ、その一環として、
 製造行程と使用方法の映像記録が撮
 影されました。
 今回は、まず「甲南ふれあいの館」
 にて、総合調査にも関わられた甲賀
 市教育委員会の長峰さんに前挽鋸に
 ついて学び、映像記録を上映。上映
 後は甲賀産食材の特別メニュー弁当
 を食べながら、参加者の皆さんと交
 流。午後からは、地元で木挽職人を
 されていた田中新治郎さんに丸太を
 挽く実演をいただき、参加者も体験。
 丸太を一本割る作業に約4時間かか
 りました。途中、散策グループに分
 かれ、長峰さんと一緒に、甲南町の
 前挽鋸製造地の名残や、歴史的な名所、
 伊勢街道を訪ね歩きました。



『甲賀前挽鋸』

『甲賀の木挽』

1997年制作/26分
 制作・甲南町教育委員会
 前挽鋸の作り方がわかる記
 録映像。元前挽鋸鍛冶今村謙
 治氏(故人)による前挽鋸製
 造工程が再現されています。
 撮影時には、作業部屋を復元
 し60年ぶりに「透き」の作業
 が行われました。「透き」を
 専門に行う職人は、基本「歯
 焼き」作業は行わないが、今
 村さんは全工程を行う貴重な
 職人で、全工程の撮影を行う
 ことができました。
 材料の鋼(はがね)をうち
 ノコギリの形に抜く「背抜
 き」。クビと呼ばれる鉄製の
 部分を接着させる「首接ぎ」。
 ノコギリ歯を打ちぬく「歯落
 し」。ノコギリをカンナで削
 り生成する「透き」。刃先に
 火を入れ強める「歯焼き」。

1997年制作/16分
 制作・甲南町教育委員会
 木挽職人の技術がわかる記
 録映像。元木挽職人田中新治
 郎氏による立木の伐採から製
 材までの作業工程が再現され
 ています。
 斧やノコギリ、楔を使用し
 て木を切り落とす「伐木」。
 切り落としした木の「真」を
 見定めノコギリで丸太にする
 「玉切(たまきり)」。この作
 業が一番難しいといわれる丸
 太から材をとる「木取り」の
 ための墨壺を使い線をひく
 「墨つけ」。前挽鋸を使い材に
 する「挽割(ひきわり)」。



墨つけをする田中さん



長峰さんと
歩く甲南

田中さんの実演や前挽鋸の体験をした後、前挽鋸木挽チームと分かれ、長峰さんのナビゲートで「甲南ふれあいの館」周辺の甲賀前挽鋸が製造・流通されてきた街並みを巡りました。



浄福寺から見渡す甲南の風景



浄福寺「田中安右衛門の慰霊碑」天保一揆で捕らえられ江戸送りの途中で亡くなった農民を慰める碑



袖川の支流、砂川沿いをおるく



鋸鍛冶屋さんのお宅。鍛冶屋の神社「稲荷神社」が自宅横にまつられているのがみえる



森尻の矢川神社。甲賀衆の産土神がまつられる。天保一揆でも役割を果たした



左が袖街道、右が伊賀街道社



深川市場には趣きある元鋸鍛冶のお宅が残る

「企画提案・共同主催」
「美の滋賀」探訪バスツアー〜美の宝庫・滋賀の魅力に出会う旅〜
滋賀の水の文化を探訪するツアー 安曇川編
「筏流しの神さま・シコブチさんを訪ねる旅」

日 2015年11月21日(土)

旅行企画・実施 近江トラル株式会社
企画提案・共同主催 おうみ映像ラボ
(担当 大藤寛子)

ナビゲーター
白井忠雄さん
(高島歴史民俗資料館学芸員)

スケジュール
▽堅田駅 集合(バスにて移動)

- ← 葛川息障明王院/地主神社
- ← 梅ノ木・志子淵神社
- ← 久多・志古淵神社
- ← 「鯖寿司工房みうら」のお弁当で昼食
久多在住の常本治さんより神社や花笠踊のお話
- ← 小川・思子淵神社
- ← 平良・思子淵神社
- ← 岩瀬・志子淵神社
- ← 中野・思子淵神社
- ← 安曇川駅
- ← 堅田駅にて解散



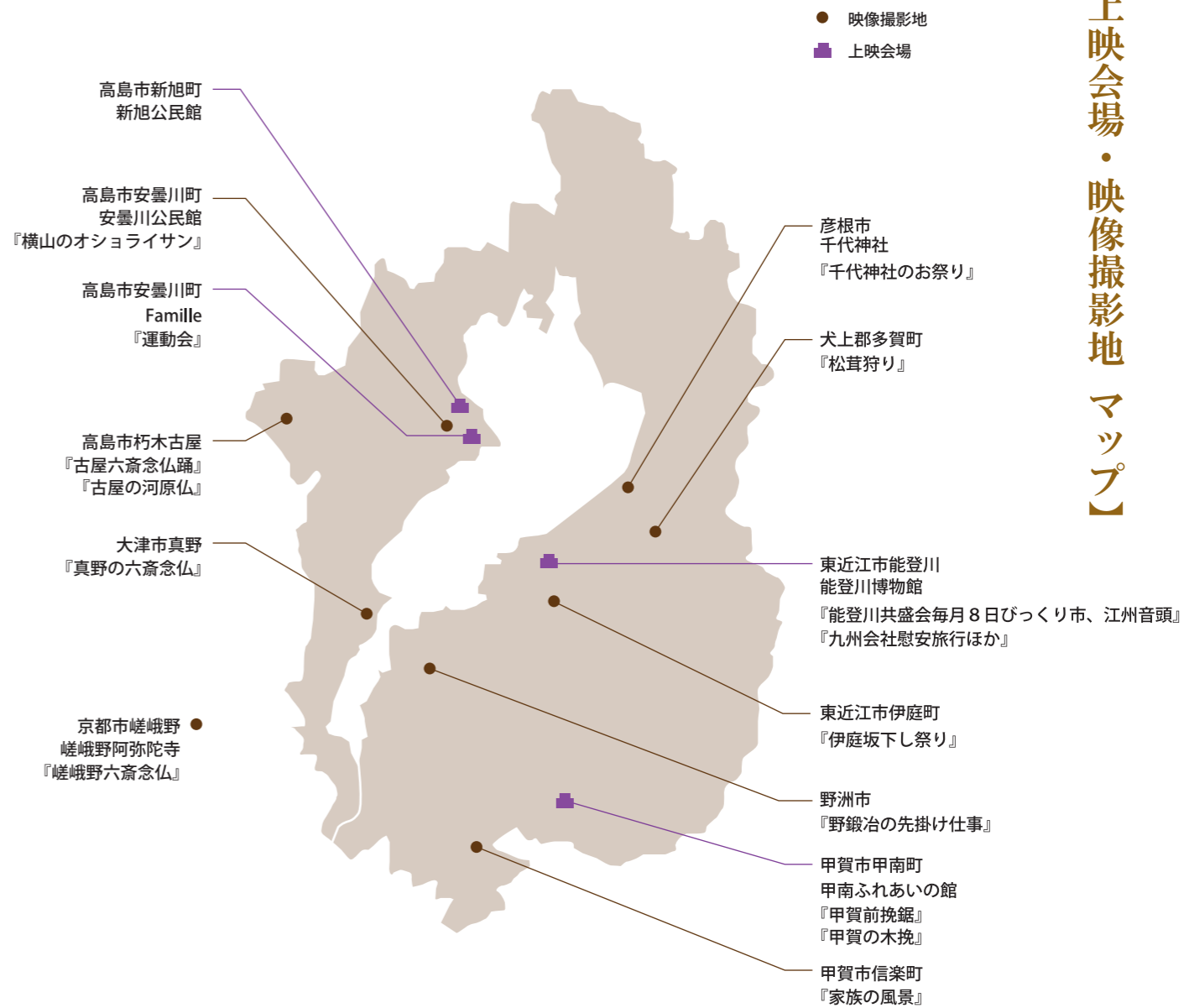
滋賀県による新生美術館に関わる取り組みの一環として「美術館を核に県内各地の文化やアートに関するスポットを結び、滋賀ならではのアート・ツーリズムの提案・定着を目指すバスツアー」の募集が行われ、おうみ映像ラボはツアーの企画提案・共同主催をさせていただきます。

安曇川水系の山の木材は、古代より筏のかたちで川を運ばれ、奈良や京都の都づくりに使われてきました。筏流しは危険な仕事のため、無事に終わることを願って、川の魔物を取り除く神さま「シコブチ神」が誕生し、安曇川水系には十数社の神社が点在、人々の間で信仰されてきました。シコブチの漢字が各地で少しずつ違う点も興味深いです。

今回のツアーでは、安曇川上流から下流に向けて、秋の紅葉を楽しむながら、山と川の恵みを生かした生活、そして水に対する信仰の美に触れる旅となりました。



【上映会場・映像撮影地マップ】



[おうみ映像ラボの活動にご注目ください]

facebook

www.facebook.com/omieizo.lab

Twitter

https://twitter.com/omieizo_lab

おうみ映像ラボ since 2014
BOOK vol.2 2015

2016年2月28日発行

企画・制作・発行／おうみ映像ラボ

デザイン／大原歩

写真撮影／金東薫、植田翔太

お問い合わせ／おうみ映像ラボ

omieizo_lab@yahoo.co.jp

平成27年度滋賀県「美の滋賀」創造事業地域の元気創造・暮らしアート事業
平成27年度文化庁文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業

ご協力いただいた皆さま（順不同）

高島市教育委員会
嵯峨野六斎念仏保存会
成安造形大学附属近江学研究所
びわ湖高島・野鍛冶復活プロジェクト
東近江市能登川博物館 Familie
甲賀市教育委員会 甲南ふれあいの館
近江トラベル株式会社
びわ湖ワークス 高島歴史民俗資料館
山本晃子さん 加藤賢治さん
松本篤さん 杉浦隆支さん
宇田安利さん 宮田法子さん
田中新治郎さん 長峰透さん
白井忠雄さん 常本治さん
金東薫さん 植田翔太さん



